

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600147		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 南千里 (東ユニット)		
所在地	大阪府吹田市高野台1-6-2-101 千里高野台ハイツ1F		
自己評価作成日	平成27年9月	評価結果市町村受理日	平成28年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosoCd=2791600147-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活して頂くことを目指しています。調理・洗濯・掃除などの家事をする家事リハビリや、利用者様お一人おひとりの状態に合わせた生活リハビリを通し、ご本人がそれぞれ生活の目的・目標を持って頂けるようなグループホームにしたいと思っています。地域とのかかわりも日々の買い物や催事の際の老人会の協力や寄付など交流を持っている。、スタッフの健康診断の受診、インフルエンザの予防接種などできる限り地域の店舗、開業医、調剤薬局を使うようになっています。閉鎖的にならない様個別の外出など外出も増やしています。昨年より今年は施設内の行事も充実し、お花見も家族様に呼びかけ3組の家族様が一緒に参加していただきました。納涼祭では夜店風の店舗をしたり、浴衣を職員が着用し盆踊りをしました。ご家族様からも最近では行事が多いですねと喜ばれています。9/21開催の敬老会にも家族様をお誘いしています。その日は、揚げたて天ぷらの懐石弁当を子会社の美味しい料理の和食の料理長が来所し準備します。昨年参加した音楽療法のコンサートには今年も参加予定です。コンサートも家族様の参加を呼び掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは一人ひとりを尊重し自分らしく暮らしてほしいとの思いを込め「入居者様の笑顔が一番」と理念に掲げ、新人職員にもその内容を伝えていきます。管理者は職員と一緒にケアに当たりながら職員の認知症ケアの知識や技術等が習熟が出来るよう指導をし、申し送りやミーティングを重視し利用者を主体としたケアの提供から笑顔を引き出せるよう取り組んでいます。業者による握り寿司などの食事の実演や行きたい所へ出かける支援を行い希望を叶えることで楽しみや喜びから笑顔を見れることを職員の励みにもしています。階上にあるマンションの住民と共同で行う防災訓練時には段差での車椅子の使い方を覚えてもらい、車椅子の方の見守り等を依頼するなど良好な関係が築かれ、さらに地域の祭りや地区別の運動会への参加などから地域との関係構築に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様お一人おひとりを尊重し自分らしい生活の継続をご家族様、地域と共に見守り支援いつも笑い声が絶えないグループホームを目指しています。法人事業所理念を掲示しスタッフが再確認しながら従事しています。	法人の理念を基にホーム独自の理念を「利用者の笑顔が一番」と掲げ、利用者の笑顔を引き出せるような日々のケアを実践しています。一人ひとりを尊重し、その人らしく暮らしを継続する為のケアの在り方をカンファレンスで話し合い実践に取り組んでいます。介護計画の見直し時に理念について振り返る機械となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣の店舗に買い物に行っています。散歩等を通して地域の方との交流を持つようにしています。また地域の行事に参加するように努めています。	近隣の商店での買い物を心がけ、挨拶や地域の情報も得られる顔馴染みの関係が築かれ、地域の祭りや地区別の運動会の案内があれば参加するよう努めています。中学生の体験学習の受け入れやホームで夏祭りを主催したり、ふれあい喫茶の参加を検討する等、地域との交流に向け取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、ご家族様に運営推進会議に参加して頂き認知症等について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催しその時に利用者様の状態変化等を説明している。その中で助言等を頂き、利用者様にとってより良い生活が送れるように活かしている。	会議は地域包括支援センター職員や介護相談員、利用者、時には家族等の参加の下、年6回開催しています。活動内容や行事、研修の報告を行い意見交換をしています。老人会や民生委員の会議への参加について市の窓口と相談してはどうかとのアドバイスをもらい検討しています。また議事録は家族全員に送付し内容を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター、社会福祉協議会、などからの情報やアドバイスなどを頂き協力関係を築くように努力している。	運営推進会議の議事録は行政の窓口へ持って行き、相談が出来る関係が築かれています。また、実践者研修について連絡を取り合ったり、市主催の介護フェアーの案内の協力を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を全ての職員が研修し理解を深めています。その上で安全面を優先しなければならぬ場合など、事前に家族様に了解を得て対応することもあります。また環境面の事もあり施錠をしています。	年1回法人の身体拘束について研修があり、伝達講習を行ったり報告書の提出で周知を図っています。薬の服用については医師に相談しながら生活の質の向上を目指した取り組みを日々のケアの中で検討し拘束に繋がっていないか振り返り、不適切な言葉使いや対応があれば注意し合っています。玄関は閉めています各フロア間の出入りを自由にしたり、外と一緒に付き添って出かけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、全ての職員に対し研修し、理解を深めています。また、利用者様お一人おひとりの尊厳について守れるよう努めています。		

グループホームたのしい家南千里(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、3名の入居者様が成年後見人制度の活用されています。また職員も成年後見人制度の理解を深めるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、会社・事業所の理念、運営方針、金銭面などを十分に説明し納得頂ける様努めています。また、誤った理解のないよう必要に応じて何度でも説明した上で、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との連絡を密にし、また運営推進会議に出席して頂き意見、要望を出して頂いています。玄関に意見箱をおいています。	運営推進会議や面会時に直接意見や要望を聞いたり、遠方の家族にも電話で聞き、出来ることは速やかに対応し報告をしています。意見を受けて医師に相談をして服薬の変更した事例があったり、新人職員は面会時に紹介する等、意見や要望を運営に活かしています。また、年1回法人が満足度調査を行い結果も運営推進会議で報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回の施設会議を開き職員と意見・提案を反映している。常に意見・提案・要望が言える環境にし反映させるよう努めています。社長ダイレクトの業務改善が提案できるシステムがあります。	毎月行われる会議では意見を申し送りノートやメモで受け、様々な提案や業務改善の意見が出され検討しています。利用者との関わりの時間を増やせるよう掃除の時間帯を変更する等の業務改善につなげています。また、悩みを抱えている職員には管理者が個別に面接を行い職員からの提案や相談ができる環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社はパートタイマーから正社員への登用、リーダーを目指せる体制を作っている。処遇改善についても積極的に実施している。定年制が2014年4月から撤廃された。変則勤務の為大変だが希望休、有給、季節休等とりやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途採用者にも4日間の研修を義務付け職員定着のための努力をしている。勤務調整を行い、社内外の研修に参加しやすい環境に努めている。研修・受験の資格のある職員には参加を促し、スキルアップにつながるよう配慮している。中途採用者へのフォローアップ研修やアンケートの実施で就業継続に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加している。今年は事例研究会も開催参加の予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様の不安・要望を重視したアセスメントを行い、職員間情報を共有し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き施設の雰囲気を感じて頂き、面接・契約時に現状・困っている事・希望等をお聞きます。ご本人をだまさず入居できるよう相談し実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の不安・要望・現況に沿った介護ができるか判断します。対応出来ない時は他の施設を紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力をアセスメントで把握し役割を持って生活できるよう支援しています。人生の先輩として尊厳し、その人らしさを失わないように支援します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にご本人ご家族様、職員が協力し、ご本人の生活を支援していきたいとお願いしています。日頃から現状をお話し、また月に一度近況報告をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から何時でも面会に来て頂けるようお願いしています。生活暦・趣味を聞き楽しんで過ごして頂けるよう心掛けています。	家族や親類以外にも以前在宅で利用していた事業所の職員の面会があり、一緒に散歩に出かけたり、居室やフロアでゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。また、家族の協力の下馴染みの美容院や墓参りに出かける時や外泊の際には準備などの調整を行っています。個別に聞いた思いは家族に伝えるなど、相談しながら遠方の出身地まで職員が付き添い馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援する事を考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が相互理解できる様、孤立しない様に職員が声かけ・雰囲気作りに努めています。		

グループホームたのしい家南千里(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても交流はあります。依頼があれば相談・支援をしたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で利用者様の様子をよく見て、訴えを傾聴します。職員で対応を検討し、本人希望に添った支援をします。	入居前の面談や面会時に本人の思いや家族の意向、生活歴や趣味等を聞き、アセスメントシートに記入し暮らし方の希望を把握しています。また、以前のケアマネジャーからも情報を得ています。日々のケアを通して思いの把握に繋がるように関わり、得た情報も追記し、本人の意向はそのままの言葉で記録し共有出来るようにしています。困難な時は会議で話し合い、本人本位となるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き、著しい環境の変化がないように注意します。できる限り馴染みのものを入所時は持ってきていただきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・職員間の申し送りなどで、心身の変化に注意し情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催、入居者の状態の変化に合わせたプランの作成をしています。家族への説明、相談を丁寧に行うようにしています。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリングを行い個々の計画の再確認と評価を行い、6ヶ月から1年で更新しています。サービス担当者会議に本人、家族の参加もあり、状況に変化があれば随時見直しています。見直しに当たっては本人や家族、医師、看護師の意見を改めて聞いています。職員は情報を共有し計画に沿った記録がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やチェック表を共通の情報とし、重要なことは口頭でも申し送ります。介護計画にも反映します。重要な状態については、マーカーをでチェックし情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現状に応じて柔軟な対応をするのと同時に、公平さを考え時には他のサービスを紹介しています。		

グループホームたのしい家南千里(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を深め、地域の方々から行事・催し物を紹介して頂き参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人・家族様に提携医を説明し、納得・了解して頂き月3回の訪問診療をお願いしています。他科の受診が必要な時は紹介状をお願いし、早急に適切な診療を受けています。	入居時にかかりつけ医を継続できることや協力医について説明していますが、ほとんどの方が24時間連携可能な体制のある協力医の往診を月3回受けています。また眼科、歯科の往診があり希望者は治療を受けています。健康管理に訪問看護師が週に1回訪れ医師との連携が図られています。他の専門医の受診は家族が対応し、文章による情報提供や口答で結果を聞いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回健康管理をし、常に状況に応じ職員からの相談や提携医との連絡を密にし病状の説明をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご本人様に面会したり、家族様と医師の説明を聞き、退院後の生活がスムーズにできるようにしています。病状によっては訪看の協力を得、早期退院に努力します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の希望を、ご家族様・提携医・施設の3者面談で話し合います。現状が変化する都度、3者で話し合います。ご家族様の意向を大事にしています。	入居時に重度化に伴う対応指針にそってホームで出来る事や出来ない事等を説明しています。医師は早い段階から状況の説明を家族に行い、状況の変化があればその都度説明し希望を聞いています。医師からはケース毎に合わせ、職員に対応方法等の指示があり、24時間医師に相談できる関係が築かれています。また、看取りの研修も行い適切なケアと不安の軽減に繋がるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の緊急や事故発生時のマニュアルがあり、職員は初期対応の研修を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マンション住民とともに消防署の協力を得て立会いのもと年2回の消防訓練を実施しています。緊急時のマニュアルを職員に周知しています。	マンションの1階にホームがあり、年2回共同で昼夜を想定し消防訓練をしています。建物全体の複合火災受信機の確認や通報、水消火器、避難誘導の訓練が行われ利用者も参加しています。訓練時には地域住民には車椅子を自走出来るの方の見守りの協力を依頼しています。職員にはマニュアルを用い勉強会で周知に努め、水や食料の備蓄をしています。また、参加の住民には車椅子の使い方を説明しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重し、プライドを傷つけるような対応をしないように心掛けています。職員は個人情報保護の研修を受講しています。	人権や接遇マナーについて研修があり、尊厳やプライバシーについて周知しています。言葉遣いはやさしく、丁寧な言葉での対応を指導し、親しすぎないように声のトーンや目線にも配慮しています。管理者は命令口調的な言い方はせず肯定的な言葉かけをするように職員に伝え、不適切な対応時には指導や注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様が自分の思いを話せる雰囲気作りに努めています。その思いを極力実行するよう努力します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合った対応に心掛けています。個々に合った催し物を探して参加します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度の訪問理美容を利用し整容に努めています。起床時や臥床からの離床時の整容を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の考えた献立を職員が作っています。季節の行事や冬には入居者様の喜ばれるメニューを考え手作りしたり、外食にも出かけています。食事の準備や後片付けは役割を持って入居者にさせていただいています。	業者の栄養士が立てた献立に合わせて食材が一週間毎に届き、利用者は皮むきや後片付け等出来る事に携わっています。また、利用者の意見や季節に合わせてちらし寿司や土用の鰻、鍋物等の希望を聞いて一緒に作っています。業者の調理師による握り寿司や揚げたての天ぷらの実演もあり、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいます。また、ホームの前で弁当を食べたり、職員も利用者と一緒に食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作った献立で栄養バランスはとれています。水分は計量し、必要な分量が飲めるよう促し、記録することで健康管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施をしています。週一回希望される方には訪問歯科の衛生士による口腔ケアをしてもらっています。		

グループホームたのしい家南千里(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、失禁のある入居者にもすぐにパットやリハビリパンツを使用するのではなく誘導による排泄支援を行っています	排泄記録を参考にしながらパターンを把握し、トイレで排泄できるよう個々に合わせた声かけや誘導をしています。パットの大きさの検討や利用者の状況みて紙パンツから布の下着とパットの併用へ変更したり、水分や飲食物の工夫により排便コントロールが出来る様になった事例もあり、日々のカンファレンスの中で使用するパットなどの検討を行い排泄の自立へと向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を週3回、ヨーグルトを週4回飲食することで便秘の予防に努めている。頑固な便秘については訪問のかかりつけ医に相談し下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を基本に入浴してもらい、希望のある人には随時入浴してもらっています。時間は、シフトの担当の時間内に限られ希望にはそえていません。	入浴は週2回以上を目途に基本的な午前・午後に時間を決め入ってもらえるよう支援しています。希望があれば毎日入ることもでき、現在寝る前に入りたい希望者についての対応をカンファレンスで検討しています。湯を毎回変え、個人の石鹸や柚子湯、入浴剤で入浴を楽しんでもらい、拒否の時は人やタイミングを見て声をかけたり、日を変えて入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整や寝具の調整など安眠の支援をし、眠くない日は時間に縛られることなく寝てもらおうようにしています。安眠が取れるよう日中の活動も考え支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイリングやお薬変更時の情報共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントやケアプランにもなじみの生活を反映しています。役割や楽しみごとが多くある生活を目指して支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園芸や散歩、買い物などは日常的に行い、個別外出でモノレールにのってショッピングモールに出かけたりしました。また、音楽療法のイベントにもでかけました。桜や紅葉の時期にはドライブや外出をし季節感を感じていただいています。	天気のよい日は毎日散歩をしたり、天候に合わせて外で弁当を食べる等、外気に触れる機会を持てるように努めています。外出行事では桜並木での花見や紅葉、ドライブでは紅葉を見に出かけています。買い物に行きたい利用者の希望にそって個別の外出支援に取り組んでいます。音楽療法サークル主催のコンサートには家族にも案内をし出かけています。	

グループホームたのしい家南千里(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所で管理しているが外出などの時は自分で買いたいものは買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎ、手紙の取次ぎを行い、手紙は返事を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調やにおいに気を付けて快適に過ごせるようにしている。排泄物は新聞紙で包んで廃棄し、ごみ箱には消臭剤を使用しています。	玄関のコーナーの棚に飾り物を置いたり、造花や額、行事の写真を飾り家庭的な雰囲気となるよう工夫をしています。一人で過ごせるソファの配置や利用者同士の関係性にも配慮したテーブルの配置に配慮し、居心地のよい共用空間となるよう温・湿度の管理や空気洗浄器、加湿器を置き、換気や清掃、手すりの消毒等衛生面にも気をつけています。またゴミ置き場に換気扇をつけ、風呂場の排水口の臭い対策にも気を配るように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをフロアに置いている。食事の座席にこだわることなくコミュニティーができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はなじみのものの持ち込みを依頼している。写真や作品を部屋に飾り心地よい部屋作りに努めている。	入居時に使い慣れた物や馴染みの物を持参してもらえるよう説明し、利用者はベットや机、椅子、テレビ、寝具類等を持ち込み、家族や職員とも相談しながら安全面にも配慮した配置の工夫をしています。大切にしている家族の写真や遺影、作品、ぬいぐるみ等を飾り、安心して居心地よく過ごせる居室となるよう配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの同線指示の表示など見守りで移動できるよう考えている		